



みらい通信

第59号

発行元 NPO法人紫波みらい研究所
 連絡先 〒028-3318
 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前1-2-2
 電話 019-671-2244
 FAX 019-671-2243
 Email miraiken@shiwa-mirai.com
 発行日 平成25年 7月23日(火)

■ 夏のイベントのお知らせ

今年で10年目!!

國學院大學里山づくりプロジェクト

國學院大學の学生・卒業生が、間伐作業を通じて里山づくりをするため紫波町にやってきます!
 この機会に、一緒に間伐体験してみませんか?

実施日 8月2日(金)~4日(日)

場 所 漆立公民館集合(片寄地区)

詳細は紫波みらい研究所へお問合せください

671-2244



森のあそび場 “りんくる夏”

親子一緒にの野外体験、野山あそびを通じて、子どもと大人がのんびり遊べる時間を作りませんか。

今回は「流しそーめん」もやります。

日 時 8月18日(日)午前9時~午後2時ころまで

場 所 紫波フルーツパーク 農楽交流館

参加費 500円(保険料など)

定 員 先着10組の親子

服 装 汚れてもいい服装

持ち物 昼食、飲み物、帽子、雨具など

申込締切 8月9日(金)

電話・FAXでお申込みください。

スタッフとしてお手伝いいただける方も募集しています



■ 國學院大學里山づくりプロジェクト10周年記念事業

平成16年度から始まりました國學院大學との間伐作業を通じた里山づくりプロジェクトが10周年を迎えます。皆さまのお力添えによるものと深く感謝申し上げます。

つきましては、下記のとおり記念事業を開催いたしますので、ぜひご参加ください。



①を仲立ちにして、
まちが、人が、地域が、
元気を取り戻しています。

日時 平成25年8月4日(日) 14:00～

場所 紫波町情報交流館 大スタジオ
(オガールプラザ 2F)

入場無料

● 基調講演 14:00～15:15

NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会

理事長 澁澤 壽一 氏



● パネルディスカッション 15:30～17:00

パネリスト 藤原 孝 氏 (紫波町長)
阿部 弘 氏 (大谷公民館前館長)
高橋 未勝 氏 (NPO 法人栗駒みらい研究所館長)
岸田 万徳 氏 (國學院大學森木会代表)

コーディネーター 澁澤 壽一 氏

主催 / 紫波町・NPO 法人栗駒みらい研究所
協賛 / 國學院大學・國學院大學森木会
問い合わせ / NPO 法人栗駒みらい研究所
Tel.019-671-2244 Fax.019-671-2243

● 國學院大學里山づくりプロジェクト

栗駒町と國學院大學、NPO 法人みらい研究所との協働事業。地元住民と学生が関係機関や自治などの交流を通して、人の環をつくり、森林資源や地域の持つ潜在資源への関心を高めながら、管理型のみならず、自然型のもなづくりにつなげていくことを目指しています。

＝ 事業報告 ＝

■ 平成の森の下草刈り

7月27日(土)平成の森の下草刈りが、町内の建設業の方々など35名がボランティアで集まって行われました。

下草刈りは植樹した苗木がしっかり育ってもらうためには必要な作業です。みなさんのおかげで、草に埋もれていた苗木に日の光が当たるようになりました。

平成20年度から24年度にかけて実施しました「平成の森植樹事業」では、おかげさまでたくさんの苗木を植樹することができました。今後は、行政・山王海土地改良区・本研究所等が発起人になり、町内の企業・環境団体に協力を呼びかけ、平成の森の育林と山王海地区の水のゆくえ等をテーマに事業を計画してまいります。



■ 岩手大学「社会教育課題研究」in 紫波町

当研究所がコーディネートしている、岩手大学教育学部「社会教育課題研究」を専攻の学生24名が7月6日(土)、7日(日)の1泊2日で紫波町にやってきました。



再生可能エネルギー施設を見学

1日目はオガールでTOTO東北販売とオガールプラザの講義。その後、15講義の講師をしていただいた町長・町民と学生たちの交流会をラ・フランス温泉館で行い、講義では聞けなかったお話をじっくりしていただきました。2日目は再生可能エネルギーについての講義とそば打ち体験。自分で打ったそばを堪能していただきました。

講義は7月26日までつづきますが、終わるころには紫波町民より紫波町通になることでしょう。



そば打ち体験

岩手大学教育学部「社会教育課題研究」は、学生が社会教育主事資格を得るための必須科目となっています。講義の一環として、地域のさまざまな課題やその解決に向けた取り組み、実践に触れ、それに携わる人たちのお話を伺うことにより、少しでも学生に地域認識を深め、現場的な感覚を身につけてほしいという目的で開講されています。

岩手大学では、平成17年から、紫波町が進めている循環型まちづくりや町民が主体となり活動している紫波のまちづくりに着目し、当研究所に非常勤講師の人選を依頼してきました。

「しわエコ連絡会」結成！

紫波町内の4つの環境団体は、このたび、紫波の環境を自分たちの手で保全し、次世代に残し伝えていくため『しわエコ連絡会』を結成し、協力し合うことを約束しました。主な活動内容として、情報共有、事業のゆいっこ、環境についての研修などを実施していきます。ゆる～いつながりをなが～く続けていきます！

【しわエコ連絡会に参加する環境団体】

紫波町環境衛生組合連合会 代表 松崎勝見
紫波町ごみ減量女性会議 会長 瀬川智子
環境マイスター紫波 会長 佐藤喜一
NPO法人紫波みらい研究所 理事長 阿部礼子
事務局：NPO法人紫波みらい研究所
電話 671-2244

講演会開催！

「古着のリサイクルについて」

講師：(株)ドンドンアップ
代表取締役 岡本昭史氏

日時：9月3日(火)13時30分から
場所：情報交流館オガールプラザ
2階大スタジオ

参加費：無料
主催：しわエコ連絡会
問合せ：しわエコ連絡会事務局
NPO法人紫波みらい研究所
電話671-2244
FAX671-2243



ことのは



例年どおりとはいかない天気が続きますが、たまにはうちの商品の話でもしましょう。

と、ということで、ようやく、野菜セットの再開にこぎつけました。露地の畑でじっくり育てる有機農法。季節ごとの野菜をセットにして配達して回っています。

よく、有機野菜はスーパーとかのより甘い、とか味が濃いとかが言うのを耳にします。有機農家もよく謳い文句にするやつです。

その理由の1つは、熟し方の違い。トマトなどは、熟してから収穫すると流通に向かなくなってしまいます。だから、7割くらいしか味がのらないうちにとってしまう。

もう1つは肥料のやりすぎ。植物は肥料を多く与えれば、その分、早く大きく育ちます。畑で野菜の採れる期

間は限られるので、その間に規格品を多く回転させるためには仕方のないことでもあるのですが、そのことがえぐみ成分を作らせてしまいます。

私の小さいころに「しっかりよく噛んで食べないと身にならないよ！」と、親によく言われたものですが、野菜たちにも、どうやらそれが当てはまるらしく、じっくりと育てた方がよりよい味を出すようです。(なので、有機といっても肥料をやりすぎると、えぐみが出ます。)

うちの利点ばかり挙げましたが、慣行農法やスーパーの野菜を否定するつもりはないのです。1つ1つの方法それぞれにそうするに至った理由も、利点もあるのです。

こかげのうえんのやり方は、どちらかと言えば、人の都合より野菜の都合に沿っています。それゆえに「それじゃ困る。生のトマトを年中食べたい。」という要望に応えることはできません。

価格、味、匂い、彩り、流行...何に価値を見出し、どういうモノを手取るかそれは人それぞれの選択によるものだと思っています。そのなかで、私たちのようなやり方に目を向けたり、耳を傾けてくれたりすれば、それは大変ありがたいことです。

こかげのうえん 関 大輔

「こかげのうえん」の野菜セットの注文について聞きたい人は 080-1206-7214 関まで



■ 7月~9月の事業 みなさんの参加お待ちしております

- 7月 27日(土) しわNPO交流会...オガールプラザ マルシェ前広場
- 30日(火) 夏の涼しい菓子作り講座...オガールプラザキッチンスタジオ
- 8月 2日(金)~4日(日) 國學院大學里山づくりプロジェクト...片寄地区山林
- 4日(日) 國學院大學里山づくりプロジェクト
 - 10周年記念講演会 14時~17時...オガールプラザ 大スタジオ
 - " 祝賀会 18時~20時...ラ・フランス温泉館
 - 祝賀会(参加費 4,000円)のお申込みは、紫波みらい研究所へ
- 18日(日) 森のあそび場“りんくる夏”...紫波フルーツパーク農楽交流館
 - 参加申し込みは、紫波みらい研究所へ
- 9月 3日(火)「古着のリサイクルについて」 講師：ドンドンアップ岡本昭史氏...オガールプラザ
 - 申込み不要、どなたでも参加できます

【 編集後記 】 今年もみらい研の事務所には会員の皆様のご協力で

「あさがお」のグリーンカーテンを作っています。最近の雨のおかげでスクスク育ってくれ、花をつけ始めております。今年は葉も多く、りっぱなカーテンができそうです。

これからが夏本番！外での活動も多くなりますが、熱中症にならないよう体調を整えて頑張りましょう。

